

# 大使館情報

2016年12月

## 【目次】

### 1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢等（11月発表の経済指標）
- (2) 経済政策等
- (3) 中銀の金融政策等
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

### 2. ブラジル政治情勢

#### 内政

- (1) サントス日本人会館所有権譲渡法案の議会採択
- (2) テメル政権の取組成果の発表
- (3) リオ州要人の逮捕
- (4) カレーロ文化大臣及びリマ大統領府政府調整庁長官の辞任
- (5) 汚職対策法案（汚職対策10の措置）に関する動向
- (6) コロンビアにおける航空機墜落事故

#### 外政

- (1) 米国大統領選挙に対する伯政府の反応
- (2) セーハ外務大臣の西訪問
- (3) 天野IAEA事務局長の訪伯
- (4) カストロ前キューバ国家評議会議長の逝去

### 3. トピックス

- (1) 我が国有識者による講演の実施
- (2) 佐藤新大使の着任
- (3) 佐藤大使の「琉球国祭り太鼓ブラジリア支部創立10周年記念イベント「ゆいまーる」への参加
- (4) 百歳以上高齢者表彰式の実施（在サンパウロ日本国総領事館）

### 4. 大使館からのお知らせ

- (1) 文化イベント
- (2) ブラジル渡航情報

## 1. ブラジル・マクロ経済情勢

### (1) 経済情勢等 (11月発表の経済指標)

- (ア) 中銀が週次で発表しているエコノミスト等への調査に基づく経済成長予測に関し、11月25日時点では、本年の経済成長率は▲3.49%で8週連続の下方修正、明年の経済成長率は0.98%とされた。また、本年のインフレ率見通しは6.72%で3週連続の下方修正、明年のインフレ率見通しは4.93%とされた。
- (イ) ブラジル地理統計院 (IBGE) が発表した本年第3四半期 (7~9月) の経済成長率は、前年同期比▲2.9%で10期連続のマイナス、前期比▲0.8%で7期連続のマイナスを記録した。需要面では、投資の指標となる総固定資本形成 (▲3.1%) が再び下落に転じ、家計消費 (▲0.6%) も7期連続で下落した。
- (ウ) 10月の拡大消費者物価指数 (IPCA) は単月で0.26%となり、前月の0.08%から上昇した。交通費 (+0.75%) の高騰が寄与した。また、本年当初からの累計で5.78%、12か月累計では7.87%の上昇となり、依然として政府のインフレ目標の上限である6.5%を上回る水準となっている。
- (エ) 9月の鉱工業生産指数は、前年同月比▲4.8%で31か月連続のマイナス、前月比では+0.5%となり、2か月ぶりにプラスに転じた。
- (オ) 10月の貿易収支は、輸出額は137.21億ドル (前年同月比▲14.5%、前月比▲13.2%)、輸入額は113.75億ドル (前年同月比▲19.1%、前月比▲5.1%) で、差し引き23.46億ドル (前年同月比+17.5%、前月比▲38.5%) で20か月連続の貿易黒字を記録した。
- (カ) 9月の小売売上高は、前年同月比▲5.9%で18か月連続のマイナス、前月比でも▲1.0%となり、3か月連続のマイナスを記録した。
- (キ) 全国の失業率 (8~10月の移動平均) は11.8%となり、前回の公表値 (7~9月の移動平均) から横ばいであった。

### (2) 経済政策等

- (ア) 11月21日、伯財務省は、2016年のGDP成長率見通しをこれまでの▲3.0%から▲3.5%に、2017年については1.6%から1.0%にそれぞれ下方修正すると発表した。
- (イ) 11月22日、連邦政府は、テメル大統領及び経済主要閣僚と各州知事との会合を経た後、今後の財政調整に係る協力パッケージに全知事との間で合意した旨を発表した。
- (ウ) 11月29日、連邦議会上院は、本会議において歳出に上限を設定する憲法改正案について1回目の票決を行い、賛成61票、反対14票の多数で可決した (成立のためには2度の可決が必要)。

### (3) 中銀の金融政策等

- (ア) 11月11日、中銀は米大統領選後のレアル安の加速を受けて、大規模な通貨スワップ (先物市場でのドル売り・レアル買い) の入札を実施した。
- (イ) 11月30日、中銀の通貨政策委員会 (Copom) は、政策金利 (Selic) を0.25%引き下げて13.75%とする旨を全会一致で決定した。なお、政策金利の引下げの決定は2回連続となった。

#### (4) 為替市場

- (ア) 11月のドル・レアル為替相場は、米大統領選の結果を受けてレアルが急落し、その後は中銀による為替介入の効果もあり、1ドル=3.4レアル前後で推移する展開となった。
- (イ) 月の前半は、米大統領選の不透明感からレアルが売られたものの、その後はクリントン氏優位の情勢を受けて、1ドル=3.1レアル台までレアル高が進んだ。ところが、9日以降はトランプ氏の勝利が確実に became ことで米国の金利上昇観測が嫌気され、レアルは大幅に下落した。中銀は11日から事実上のドル売り・レアル買いの介入に踏み切り、相場は1ドル=3.4レアル台で落ち着きを取り戻した。
- (ウ) 月の後半は、年金制度改革法案の議会提出が早まるとの報道が好感されたことに加え、中銀が連日為替介入を行ってレアル相場を買い支えたところ、1ドル=3.4レアル前後の狭いレンジで推移した。月末は1ドル=3.3858レアルで取引を終えた(前月比6.0%のドル高・レアル安)。

#### (5) 株式市場

- (ア) 11月のブラジルの株式相場(Ibovespa指数)は、米大統領選の結果を受けて大きく下落したものの、その後はじりじりと回復する値動きとなった。
- (イ) 月の前半は、米大統領選の不透明感から株価はいったん下落したものの、その後はクリントン氏優位の情勢を受けて値を戻す展開となった。ところが、9日以降はトランプ氏の勝利が確実に became ことで米国の金利上昇観測が嫌気され、11日には60,000ポイントを割り込むところまで大きく下落した。
- (ウ) 月の後半は、それまでの大幅な下落を受けた値頃感から買戻しの動きも入り、OPECでの減産合意への期待などから、株価は上昇トレンドに入った。その後は、鉄鉱石価格の反騰やOPECの減産合意も好感され、株価は乱高下しつつも堅調に推移した。月末の株価は61,906ポイントとなり、前月比▲4.6%の下落となった。

## 2. ブラジル政治情勢

### 【内政】

#### (1) サントス日本人会館所有権譲渡法案の議会採択

10日、サントス日本人会館所有権譲渡法案が下院本会議で可決され、制定された。同法案は、1994年に議会に提出されて以来、22年ごしとなる議会成立となった。(その後、12月6日に大統領裁可を経て官報に公示され、施行された)。

#### (2) テメル政権の取組成果の発表

12日、大統領府は、テメル政権発足から6か月(暫定政権期からカウント)の成果を発表。歳出上限設定の憲法改正案審議の進捗、教育制度、保健・衛生などの主要分野における改革の取組実績等を強調した他、外交面でも、10月のテメル大統領訪日による戦略的パートナーシップ強化等、対日関係での成果を強調。

### (3) リオ州要人の逮捕

16日、ガロチーニョ元リオ州知事(1999~2002年4月まで)が、リオ州内北部カンポス・ドス・ゴイタカーゼス市の同市長選挙において、票の買収など選挙違反を主導した疑いで逮捕された。更に翌17日には、カブラル元リオ州知事(2007年~10年及び11年~14年の2期連続)がラヴァ・ジャット捜査の一環で大手ゼネコンからの収賄容疑で逮捕された。

### (4) カレーロ文化大臣及びリマ大統領府政府調整庁長官の辞任

(ア) 17日、カレーロ文化大臣は政府内の意見対立等を理由に辞表を提出。後任には、ロベルト・フレイレ下院議員(社会民衆党:PPS)が就任。カレーロ大臣は、リマ大統領府政府調整庁長官から私的な利権を要求されたとして右行為を批判し、テメル大統領やパデューリャ文官長からも不当な圧力を受けたとして連邦警察に告発した。

(イ) 25日、リマ大統領府政府調整庁長官は事態收拾を図るため辞表を提出。

### (5) 汚職対策法案(汚職対策10の措置)に関する動向

(ア) 23日、下院特別委員会は、賛成30票の満場一致で汚職対策法案を可決。一方、原案に含まれていた「公職従事者に対する清廉性テストの実施」等の項目は削除され、本法案の提出者である連邦検察庁はこれに反対。

(イ) 24日、連邦検察庁は、「汚職対策10の措置:国連腐敗防止条約の観点から」と題するワークショップをUNODC(国連薬物・犯罪事務所)と共催。ジャノー検事総長は法案を骨抜きにしようとする議会を批判し、本法案は、ラヴァ・ジャット捜査の強化目的のみならず、国際社会の要請に応えるものであると説明。

(ウ) 27日、テメル大統領及びマイア下院議長、カリエイロス上院議長の3者は共同記者会見を開き、本法案が規定する項目の一つである「不正な選挙献金の犯罪化」に関し、これを弱めるような議会修正(過去の不正献金を恩赦する方向)を認めないとする共通見解を発表。

(エ) 29日未明、下院本会議は、検察当局者に権力乱用罪を設定する(捜査の動きを慎重とさせる内容)など、原案に大きな修正を加えた形で本法案を可決し、上院に上程。

(オ) 30日、カリエイロス上院議長は、緊急動議により本法案の即日採決を求めたが、上院本会議では多数議員が反対し、否決された。

### (6) コロンビアにおける航空機墜落事故

(ア) 29日未明、南米杯決勝戦のため、コロンビアのメデジンに向けて移動中のブラジル・サッカー一部チーム「シャペコエンセ」の監督、選手、同行記者等に乗せたチャーター機が同国ラ・ウニオン市の山中に墜落。

(イ) 同墜落事故により、19人の選手を含む計71人が犠牲となり、Jリーグでプレイしたエヴェルトン・ケンペス・ドス・サントス・ゴンサルベス選手(元セレッソ大阪、元ジェフユナイテッド市原)、クレベール・サンタナ選手(元柏レイソル)、カイオ・ジュニオール監督(元ヴィッセル神戸監督)等も犠牲となった。

- (ウ) 29日、テメル大統領は、「私たちにとって悲しみ極まりない出来事である。私たちに出来ることは、遺憾ながら、祈りを捧げること、そしてご家族を支援するための措置を連邦政府がとることである」とするメッセージを发出。
- (エ) 30日、メデジンのアナスタシオ・ヒラルド・スタジアムにおいて追悼式典が開催され、(対戦予定であった)アトレティコ・ナショナルの選手を含め、約4万人の聴衆が出席。ブラジルからはセーハ外務大臣とフレイレ文化大臣が出席。セーハ大臣は、全ての関係者の連帯の意思に対する深い感謝の意を表した。
- (我が国は、安倍総理からテメル大統領宛、岸田外務大臣からセーハ外務大臣宛、それぞれ弔意メッセージを伝達。)

## 【外政】

### (1) 米国大統領選挙に対する伯政府の反応

- (ア) 9日、米国大統領選のトランプ候補勝利を受けて、テメル大統領は同候補宛に祝意と共に、米伯は価値を共有する二大民主主義国であり、歴史上、様々な分野において強固な関係を保ってきた旨述べ、両国国民を結ぶ友好と協力の絆を一層強化していくことを確信する旨の公開書簡を发出した。
- (イ) 9日、伯外務省 HP は本件選挙に係る声明を発表。伯は、トランプ氏の選出に対し祝意を表すると共に、同氏がスピーチにおいて、国民の分裂克服や全ての国との建設的関係の追求につき言及したことを歓迎するとした上で、「伯は米国との間で、両国国民に資する長年に亘る有益な絆を維持することに努める」とし、既存のコミットメント、及び、両国間のエネルギー、教育、イノベーション、技術、組織犯罪対策、規制の透明・効率化、インフラ、ビジネス促進等の協力アジェンダを踏まえ、トランプ氏が就任する2017年1月以降、新たな政権と協働すると共に、正当かつ協調的な世界秩序を構築する責任を果たすために、グローバルな課題についても対話と協力を推進する用意がある旨表明。

### (2) セーハ外務大臣の西訪問

- (ア) 21日から23日にかけて、セーハ外務大臣はスペインを訪問。同大臣は21日、ポンセラ通商大臣と会談し、22日には国王フェリペ6世、ラホイ首相への表敬の他、ダスティス外務協力大臣と会談を行った。
- (イ) これらの会談では、二国間の科学技術・イノベーション協力、貿易・投資等のテーマにつき協議が行われると共に、EU・メルコスール間のFTA交渉をはじめとする地域アジェンダについてもレビューが行われた由。

### (3) 天野 IAEA 事務局長の訪伯

- (ア) 23日～25日、天野之弥 IAEA 事務局長はブラジルを訪問。23日、サンパウロ州イペロ市にあるアラマール実験センターを訪問し、伯多目的原子炉プロジェクトの視察を行った(注：同プロジェクトは核医学のための放射性同位体物質の自己管理を目指すものの由)。
- (イ) 24日、天野事務局長はブラジルにおいて、カサビ科学技術・通信大臣、フェレイラ

海軍司令官、ガルヴァオン外務大臣代行と会談を実施。

- (ウ) 25日、天野事務局長はリオデジャネイロ州アングラ・ドス・レイスのアルバロ・アルベルト原子力センターを訪問し、ブラジル・アルゼンチン核物質計量管理機関（A B A C C）及び国家核エネルギー委員会等での会合に出席した。

#### (4) カストロ前キューバ国家評議会議長の逝去

- (ア) 26日、伯外務省はカストロ前キューバ国家評議会議長の逝去に対し、セーハ外務大臣名の声明を発出した。同声明では、「50年に亘りキューバ最高指導者として、同国の政治及び国際場裡において大きな存在を示し、20世紀における最も象徴的な政治指導者の一人として歴史に名を刻む。キューバ革命及び同国の政府の先頭に立ったフィデルの名とその思想及び行動への言及なくして、我々の大陸の歴史を理解することは困難」旨記され、伯政府としてキューバ国民に対し連帯の意と、同国政府及び遺族への哀悼の意が表明された。
- (イ) 29日、キューバで行われた葬儀には、セーハ外務大臣が出席した。

### 3. トピックス

#### (1) 我が国有識者による講演の実施

- (ア) 10月31日と11月1日、渡邊頼純（わたなべ よりずみ）慶應義塾大学総合政策学部教授と山上信吾（やまがみ しんご）日本国際問題研究所所長代りが、総理大臣官邸の「有識者派遣事業」によりブラジリアに来訪した。
- (イ) 2名の有識者は、10月31日にブラジリア連邦大学・ブラジリア・カトリック大学共催で、11月1日にアレクサンドレ・グスマン財団国際関係研究所で、それぞれ「国際貿易と安全保障：日本の視点」と題する講演会へ参加した。
- (ウ) この機会に、渡邊教授は21世紀の日本の貿易政策と日本・中南米諸国間の経済的パートナーシップについて、山上所長代りは東アジアの安全保障環境と日本の安全保障政策について、具体的に詳しい内容の講演をした。また、講演に引き続き、非常に活発な質疑応答も行われた。

#### (2) 佐藤新大使の着任

15日、佐藤悟駐ブラジル日本国大使が着任した。

#### (3) 佐藤大使の「琉球国祭り太鼓ブラジリア支部創立10周年記念イベント -ゆいまーる-」への参加

- (ア) 26日、佐藤悟大使は、ブラジリア市内のペドロ・カウモン劇場において当館共催で開催された「琉球国祭り太鼓ブラジリア支部創立10周年記念イベント -ゆいまーる-」に参加した。
- (イ) 開会式で、佐藤大使は、同支部創立10周年を祝い、挨拶を行った。その後、ブラジリア支部長であるハラ氏から、共催団体である中西部日伯協会連合会（FEANBRA）のスキノ

会長と佐藤大使へ記念品が贈呈された。

(ウ)本イベントには、ブラジル各地にある他の9支部のメンバーに加え、Takaryu Hananokai (サンパウロの踊りグループ)、光史太鼓(サンパウロ)、沖縄三線奏者のウエマ・アキラ氏(ブラジリア)、光太鼓(ブラジリア)、日系ブラジル人歌手のミカミ・ヒロユキ氏(ブラジリア)やトヨタ・アンジェライザ氏(サンパウロ)も参加し、会場を盛り上げた。会場には、約900名の観客が集まり、大盛況だった。

#### (4) 百歳以上高齢者表彰式の実施(在サンパウロ日本国総領事館)

(ア)11月30日、在サンパウロ総領事公邸にて百歳以上高齢者表彰式を行った。百歳を迎える高齢者の長寿を祝い、多年にわたり社会の発展に寄与してきたことに感謝し、内閣総理大臣からのお祝い状と記念品を贈呈した。本年度、海外在住で表彰を受けられる日本人の方は107名であるが、そのうちサンパウロ総領事館管内の対象者は56名と半数以上の方が当館管内に在住しておられる。

(イ)表彰式当日は18名の対象者ご本人が公邸にお越しになり、元気なお姿をお見せくださった。受賞者の中には車イスの方や103歳の方もおられたが、ご家族が献身的にお世話をされる様子とともに、皆さまが今回の表彰を心から喜び祝福する心温まる様子が見られた。

(ウ)なお、中前総領事による祝辞の中で、冒頭、コロンビアにおいて飛行機事故のため多くのブラジルの方々がお亡くなりになったこと、その中にはサッカーを通じた日伯親善に多大の貢献をされた方々もおられたことに触れ、ブラジル国民の皆様にご心より哀悼の意を表し、ご家族の方々に連帯の意を表した。







#### 4. 大使館からのお知らせ

##### (1) 文化イベント

##### 伊賀忍者特殊軍団「阿修羅」パフォーマンス (サンパウロ)

日時：12月2日（金）～12月4日（日）

場所：COMIC CON会場（São Paulo Expo）

Centro de Exposições Imigrantes Rod. Imigrantes km 1,5

内容：大規模な、ポップカルチャー・フェスタであるCOMIC CON のイベントの一環として、日本から阿修羅を招へいし、忍者の説明やパフォーマンスを実施する。

##### 2017年版カレンダー展 (サンパウロ)

日時：12月3日（土）

場所：サンパウロ州タクアリチンガ市エジミルソン財団

内容：エジミルソン元サッカーブラジル代表選手が代表を務める財団が主催するクリスマス会にて、日本の様々なカレンダーを紹介する展示会を実施する。

##### 2016年日本語能力試験

日時：12月4日（日）

場所：マナウス、ベレン、サルバドール、ブラジリア、リオデジャネイロ、サンパウロ、ロンドリーナ、ポルトアレグレ

内容：全世界で同時に実施される日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。マナウス、ベレン、サルバドール、ブラジリア、リオデジャネイロ、サンパウロ、ロンドリーナ、ポルトアレグレの8か所で実施。

##### 日本のおいしい健康食 (ベレン)

日時：12月7日（水）

場所：ベレン市、SEBRAE（零細・中小企業支援サービス）内会場

内容：市内の大学の料理学部学生やレストランのオーナー、調理師等を対象に「日本食」に関する講演会及び「豆腐」の作り方等のデモンストレーションを実施する（講師：大塚 JICAシニアボランティア）。



## (2) ブラジル渡航情報

### (ア) 外務省 海外安全ホームページ

各国の危険情報や安全対策など、海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点が掲載されている。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

### (イ) ブラジル渡航情報

#### ①危険情報

1月9日付で内容を改訂したので御確認いただきたい。以下の地域が「レベル1：十分注意してください。」となっているので、詳細をホームページで確認いただきたい。

- ・ブラジリア連邦区（継続）
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市（継続）
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏（継続）
- ・アマゾナス州大マナウス圏（継続）
- ・パラ州大ベレン圏（継続）
- ・ペルナンブコ州大レシフェ圏（継続）
- ・バイア州大サルバドール圏（継続）
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏（継続）
- ・パラナ州大クリチバ圏（継続）
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市（継続）

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo.asp?id=259>

#### ②安全対策基礎データ

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え、査証、出入国審査や大使館、総領事館の緊急連絡先が掲載されている。

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure.asp?id=259>

#### ③テロ・誘拐情勢

<http://www2.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror.asp?id=259>